

ら い 来ぶらり 67

新入生を迎えてキャンパスは桜から新緑の季節に向かっていきます。その新緑間近の銀杏の木々の彼方で、大学図書館が皆さんを待っています。図書館というと、参考書を探して借り出すところ、あるいは高学年になるにつれて何かのテーマについて知識や資料を集めるところ、というイメージでしょうか。確かに、在学中に図書館を利用する主な形はそういうことでしょうし、テーマについての情報の収集となれば電子媒体とのかかわりも出てきます。でも、始めはそう硬くならず、気軽に図書館とはどんなところか見に来て下さい。

「来ぶらり」という題は、図書館の英語「ライブラリ」に絡めて「ブラリと来れ」という気持ちで付けられた題であるらしいことが、創刊号からうかがえます。「ブラリ」で思い出すのは、英語のbrowseです。耳慣れない単語かもしれませんが、この頃はインターネット関連でブラウジングとかブラウザ（閲覧ソフト）という、あれです。動詞としては「拾い読みする」というような意味があります。そうです、図書館に親しむ第一歩として、まずはブラリと来てみて、図書

図書館ブラウジング

館ブラウジングというのはどうでしょう。特別の目的がなくても、開架閲覧室でいろいろな本を漁って、図書館でいっときを過ごしてみませんか。いわば本屋さんで立ち読みする感覚ですが、もし何かを深く読んでみたくなったら、図書館にはレファレンスサービスもあるし借り出しも出来ます。

もう一度辞書を見ると、browseの動詞の第一義は「(シカなどが)若芽、若葉を食べる」でした。図書館の本と言うと、何となく古いとか埃っぽいというイメージかもしれないけれど、東は秦、西はアレキサンドリアの昔からのことを思えば、大学図書館の書棚に並んでいる本は若芽中の若芽です。図書館ブラウジングで若芽、若葉を読み漁って、知的なキャンパスライフを楽しんで下さい。

browse [brauz] 動

図書館長
黒田成俊
(理学部教授)

拾い読みする、
(本を)



本学および数大学の蔵書目録への横断検索も実現する予定である。

しかし、これらを軌道に乗せるには解決しておかななくてはならない様々な問題がある。第一に提供するコンテンツをどう選択するか。公開するに値するコンテンツは何かということである。利用者にとって魅力あるもの、さらには本学特有のコンテンツは何かを考えていく必要がある。第二に、知的所有権（著作権など）の問題である。公

開するコンテンツの著作権者との許諾についての問題は避けて通れないものである。第三には、これらシステムに関する技術的な諸問題、特に既存資料のデジタル化をどう行なっていくか検討していく必要がある。またデータのセキュリティも考慮する必要がある。

これら様々な問題はあるにせよ、21世紀の高度情報化社会に対応した電子図書館システムへの取り組みが今始まろうとしている。

電子図書館についてなんとなくイメージが湧いたでしょうか。では百聞は一見にしかず、実際に電子図書館を体験してみましょう。誰でも簡単にアクセスできる電子図書館のうち、おもだったものを紹介しましょう。

【国立国会図書館電子図書館】 <http://www3.ndl.go.jp/rm/index.html>

国立国会図書館が所蔵する主として江戸期に発行された彩色資料約23,000枚の画像データを検索し、閲覧することができる。

【国立国会図書館デジタル貴重書展】 <http://www.ndl.go.jp/exhibit/50/index.html>

平成10年国立国会図書館開館50周年を記念して行った「貴重書展」の内容をデジタル化したもの。当館所蔵の貴重書・準貴重書の中から重要文化財4点をはじめとして約100点が紹介されている。また平成12年には「世界の中のニッポン」と題する電子展示会を公開した。「日本の風景記憶」「ウィーン万国博覧会」「憲政資料」の3つのテーマから構成されている。

【American Memory Project】 <http://memory.loc.gov/>

米国議会図書館が1995年から5ヶ年計画で進めてきたプロジェクトである。アメリカの歴史的資料に関する画像、音声、映像など数百万点のデータをインターネットで公開している。

【京都大学電子図書館】 <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/minds.html>

京都大学図書館が所蔵する貴重書の中で、国宝の「今昔物語集」（鈴鹿本）をはじめとした多くの貴重な資料や、学内刊行物をデジタル化して公開している。この他に「維新資料画像データベース」などの特殊コレクションも公開している。

【神戸大学震災文庫】 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/index.html>

阪神・淡路大震災関係の公刊図書、レジュメ、チラシ類、映像、音声にいたるまでの様々な資料がデジタル化され公開している。

【青空文庫】 <http://www.aozora.gr.jp/main.html>

民間の機関が運営している電子図書館で、著作権の切れた作品と、著者が自由に読んでもらってかまわないとされた作品（主に文学作品が中心）約1,300点がテキスト、HTML等の形式で公開されている。

（総務課 倉持仁志）

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟図書館の図書が借りられます

現在、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟の図書館（学習院大学、青山学院大学、國學院大学、東洋大学、法政大学、明治学院大学、明治大学、立教大学）では、学生証（身分証）の携帯だけで館内の利用（閲覧、コピー）をすることができます。昨年8月から12月の5ヶ月間で学習院大学からは延べ124名以上が利用しました。

この4月から（開始日は大学によって異なります）さらにサービスが拡大されて、学生証（身分証）を携帯して、所定の手続きを行うと、図書を借りることができますようになりました。3冊（大学によって多少異なります）を2週間借りられますが、個々の利用条件や規則などは各大学で異なりますので、コンソーシアムのホームページや、本学図書館内の掲示を見て確認してください。

「借りた本は大切に扱い、期限内にかならず返却する」という基本マナーを守って、このサービスをおおいに活用しましょう。

コンソーシアムのホームページ <http://www.glim.gakushuin.ac.jp/gul/info-yamanote.html>
（運用課 久保田 安子）

新潮文庫2800冊、どど〜んと登場

学生アンケートでも要望が多かった文庫本購入について、昨秋大学図書館の選書委員会で検討しました。数種の文庫本の総目録を取り寄せ、内容の比較検討を行った結果、古典といわれるものから現代作家までバランスよく入っている「新潮文庫」が候補にあがりました。でも、在庫を全部購入するとなると高額になるし、毎月10~20冊新規に刊行するので慎重に検討しましたが、学生希望図書購入費が増額したこともあり、「購入決定!!」となったのです。



1月中に段ボール7箱、約2800冊が納入され、図書館の整理部門factoryでは機械貸出ができるよう、バーコード貼り、表紙力パー糊付け、背ラベル添付、データ作成とオートメーション方式で本を流しています。この「来ぶらり」が刊行される4月には図書館1階第2開架図書室東側に配架されます。

Yonda? Yondene!!!

（整理課 野村 恵子）

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ（<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>）で公開しています。

来ぶらり No.67 2001年4月1日発行

発行責任者：黒田成俊 編集委員：倉持仁志・八木橋理智子

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03-3986-0221(代) 内239㉞(参考) 内239㉟(閲覧) 03-5992-100㉞(閲覧直通)